

<令和 7 年度・やまなみ工房 まとめ>

1) はじめに

近年、障害のある人のライフスタイルや価値観の多様化がさらに進んでいる中、障害のある人の現在の生活実態や福祉サービスの利用状況および利用者のニーズ等を十分に踏まえ支援の充実を目指してきた。やまなみ工房は現在（令和 8 年 3 月 31 日）障害者多機能型事業所定員 80 名（就労継続支援 B 型・定員 25 名・現員 30 名、生活介護・定員 55 名・現員 63 名）として 93 名の利用者が在籍している。令和 8 年度においては新たに 2 名（B 型 1 名、生活介護 1 名）の入所が決定している。

今年度、出勤数においては年間 1 日当たりの利用者数、就労継続支援 B 型が 86.4%、21.6 人（6 年 88.8%、22.2 人）、生活介護が 95.1%、52.3 人（6 年 94.4%で 51.9 人）となり平均 73.9 人（6 年 74.1 人、5 年 75.5 人）と僅かではあるが減少傾向にある。利用者においては各班主任を中心に連絡・調整を円滑に行い、利用者の健康と安全を第一に、利用者とその家族の実態に適した包括的な支援の向上、一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間の中で活動ができるよう創意工夫を凝らし、心身ともに豊かな人間性溢れる支援、個々の立場に立った適切な支援と就労保障を行った。次年度以降は更に出勤率を上げ年間平均利用者数 80 人を目標値とする。そのためには個々の支援の充実はもちろん、長期欠勤者に対してもきめ細かい配慮、家族を含めた関係機関との連携を強化し一人ひとりに応じた更なる支援の充実が求められる。

2) 施設財政

令和 7 年度においては事業活動収入合計が 193,637,580 円となり、前年度の 191,781,521 円と比較すると僅かではあるが 1,856,059 円の増収となった。ただ今年度においては支出が大幅増となり結果的に昨年の収支差額 11,077,046 円から 1,814,016 円となり不安定な経営状況となった。直近 3 年と比較しても毎年令和 6 年度同様の収支差額を計上していたが 7 年度については非常に厳しい状況である。主な要因として利用者支援の質を高めるため職員の加配を行ったこと、新たに送迎ドライバー等を雇用したこと、給与規程を一部見直したことにより人件費が高騰した。またコロナ以降対外的な事業が増えていること、新規機器整備が多発したことや社会状況による価格の高騰等があげられる。今後も重度障害者の支援に伴うマンパワーの確保、厨房や事務職員の加配等、体制の強化を図りつつ財源の確保を行わなければならない。

図 1) 福祉事業活動による収支

科目	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人件費支出	125, 806, 763円	131, 249, 670円	140, 345, 849円
事務費支出	20, 113, 730円	21, 634, 465円	23, 962, 578円
事業費支出	22, 389, 503円	24, 878, 180円	24, 076, 603円
支払利息支出	154, 303円	164, 632円	179, 041円
その他の支出	2, 760, 933円	2, 777, 528円	3, 259, 493円
事業活動収入計	181, 700, 249円	191, 781, 521円	193, 637, 580円
事業活動資金収支差額	10, 475, 017円	11, 077, 046円	1, 814, 016円

3) 利用者状況

令和 8 年 3 月 31 日現在、利用契約者数は 93 名となり就労 B 型・定員 25 名に 31 名、生活介護・定員 55 名に 62 名が在籍している。1 年間の開所日数は 247 日（昨年 249 日）となり年間を通した定員に対する平均利用率は、生活介護 95.1%（昨年 94.4）、就労 B 型 86.4%（昨年 88.8%）と B 型が減少傾向となっている。実際の一日平均利用者人数は 73.9 人（昨年 74.1 人）が通所していることとなる。次年度以降、個々に応じたサービス内容を見直し、現状のニーズに対し更に対応を強化できるよう体制を整えることが求められる。引き続き利用者には積極的に出勤を促し、出勤者数は一日当たり 85 人を目標にしたい。

やまなみ工房の利用者の障害程度区分においては、区分 1 が 2 名、区分 2 が 4 名、区分 3 が 6 名、区分 4 が 25 名、区分 5 が 28 名、区分 6 が 16 名、区分なし 12 名の計 93 名となり区分なしの 12 人を除けば平均程度区分は 5.1（昨年 4.5）となり強度行動障害等重度加算対象者をはじめ支援度も高くマンツーマン対応が必要になるなど支援度の高い重度の利用者が 35 名、全体の 56%在籍していることとなる。一方年代比率は 10 代 3 名、20 代 36 名、30 代 26 名、40 代 15 名、50 代 12 名、80 歳以上 1 名となっている。

男女比率は男性 57 名、女性 36 名、昨年同様一部の利用者は高齢化に伴い特別な支援を必要とし障害特性よりも加齢に伴う支援が求められる。また生活の基盤を高齢の親が担う事例が多く、そのため家族を含めた包括的な支援を必要とするケースも少なくない。地域別で見ると甲賀市からは 59 名が通所し、湖南市から 16 名、草津市から 3 名、大津市から 3 名、栗東市から 1 名、三重県より 6 名、その他、東近江、長浜、日野、京都、兵庫よりそれぞれ 1 名となっている。それぞれモニタリングによる支援計画を作成し年 2 回の面談を全ての利用者、家族と行いニーズの確認を行った。また、日々の連絡帳での確認や健康チェック等行うほか、必要に応じ調整会議等適時行った。今後、利用者や家族の権利を正しく保障

するため権利擁護事業や後見人制度の周知、苦情解決委員会の存在や苦情解決に係る要綱の周知を徹底し、常に些細な事においても意見や質問が出しやすいよう配慮し連携を深めたい。

図 2) 生活介護 出勤率 年間平均 95.1% (6 年 94.4%、5 年 95.3%、4 年 87.6%)
1 日平均 52.3 人 (6 年 51.9 人、5 年 52.4 人、4 年 48.2 人)

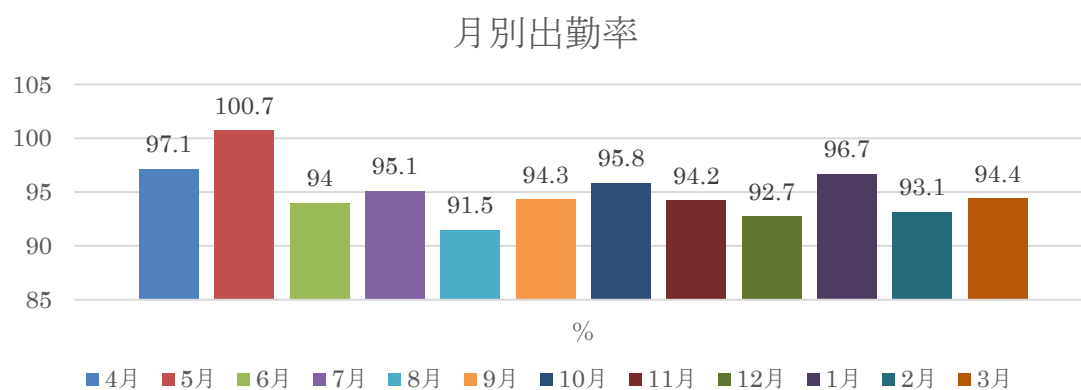


図 3) 就労継続 B 型 出勤率 年間平均 86.4% (6 年 88.8%、5 年 92.4%、4 年 90.8%)
1 日平均 21.6 人 (6 年 22.2 人、5 年 23.1 人、4 年 22.7 人)

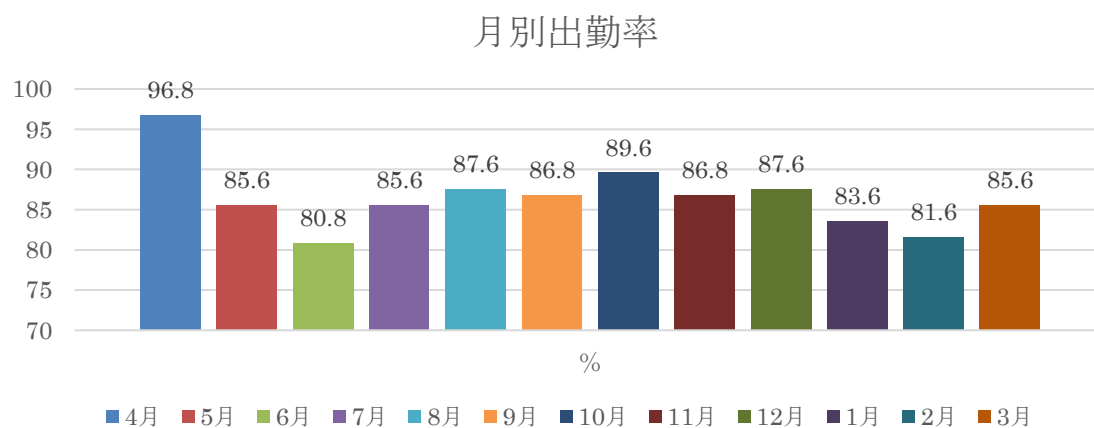


図 4) 年代別・利用者比率

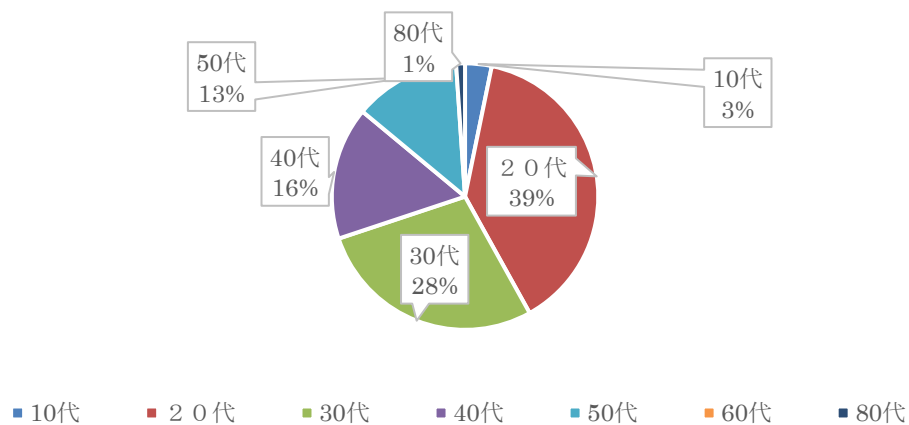


図 5) 男女別・利用者比率

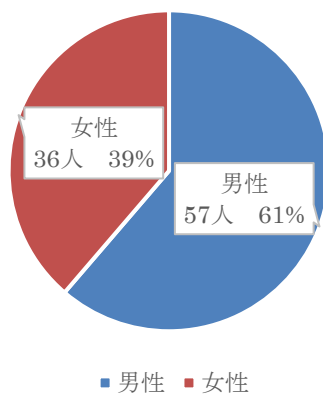


図 6) 地域別利用者

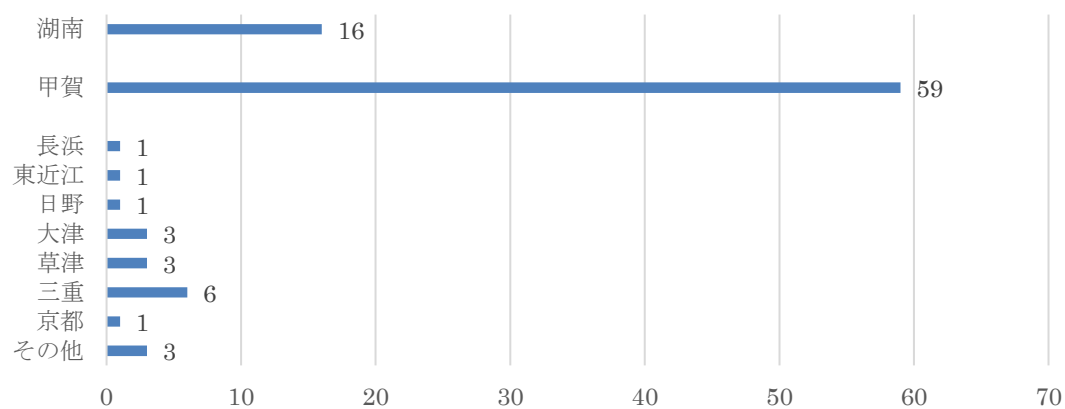
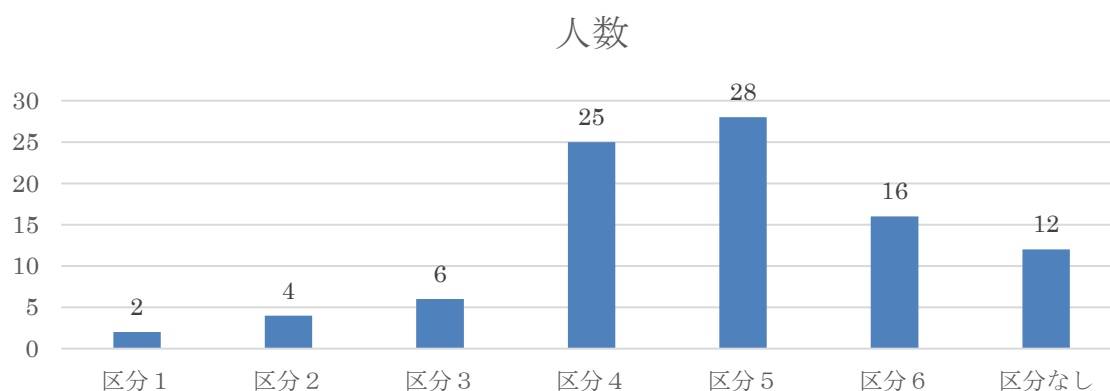


図 7) 利用者障害者支援区分 平均区分 5.1% (6 年 4.9、5 年 4.4)



4) 授産活動

今年度においても収益は大幅に増加し、収益は **77,852,718 円** (6 年 53,113,082 円、5 年 44,417,960 円、4 年 34,152,245 円)。特にヘラルボニーをはじめ他団体との事業により様々な大きな成果が顕著に表れている。今後も積極的な展覧会の開催、また企業団体をはじめとしたコラボレーション等、安定した収益増を目指し、計画的に利用者の工賃向上を達成したい。結果的に年間 **77,852,718 円** の収入に対し支出の総額は **78,525,988 円** となった。主な支出は新たに制作した写真集の影響もあるが主には利用者の著作権料や原材料費等による諸経費であり、高額販売や謝金に伴う特定の利用者工賃支給によるものである。このことにより今年度の当期繰越金額は **-673,270 円** となり、授産収益の繰り越し総額は **39,603,670 円** (6 年 40,276,940 円) となる。来年度利用者の賞与や工賃向上、並びに授産事業拡大に向けた事業について計画的用途を明確にしたい。

●令和 7 年授産収入一覧

項目	令和 3 年度収入	令和 4 年度収入	令和 5 年度収入	令和 6 年度収入	令和 7 年度収入
作品販売、展覧会等	12,922,611 円	25,600,150 円	33,965,721 円	42,200,718 円	67,695,082 円
古紙回収、キャップ回収	242,160 円	195,060 円	146,831 円	72,489 円	30,881 円
メンテナンス	752,339 円	738,905 円	827,343 円	827,673 円	820,600 円
自動販売機	907,194 円	955,955 円	1,329,537 円	1,326,562 円	1,510,817 円
仏花・洗車	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
カフェ	2,451,710 円	2,355,575 円	3,013,065 円	3,107,673 円	2,870,862 円
見学科	116,500 円	601,000 円	1,274,101 円	1,448,700 円	1,132,900 円
Tシャツ、トートバック	2,482,601 円	1,423,700 円	965,700 円	1,034,500 円	9,000 円
LIVE 事業	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円
ガチャガチャ	128,620 円	32,220 円	25,800 円	20,100 円	33,600 円
グッズ/ショップ	1,035,736 円	1,240,413 円	2,149,074 円	2,256,847 円	2,019,922 円
ATM 清掃/LINE	16,280 円	14,193 円	0 円	0 円	0 円
物資	604,980 円	593,770 円	601,470 円	632,160 円	785,850 円
その他	5,953,069 円	401,304 円	720,788 円	185,660 円	943,204 円
合計	27,613,800 円	34,152,245 円	44,417,960 円	53,113,082 円	77,852,718 円

5) 利用者工賃

利用者の工賃においては、今年度もそれぞれ生活介護及び就労継続支援 B 型の事業別によるやまなみ工房工賃規程に基づき支給した。現在の月給工賃平均支給額は一人当たり生活介護が約 8,334 円、B 型が 7,981 円となった。生活介護には長期在籍利用者も多く、また一部作品販売や作品使用のロイヤリティが個人に別途支給されており生活介護在籍者の平均所得が上回っている。ただし依然十分な支給額ではなく今後一部工賃規程を見直し全国平均に準じた月額保障

を実現したい。尚、利用者には一律特別賞与を夏 10,000 円、冬 15,000 円、年度末手当 15,000 円を支給した。

引き続き作家別著作権料については毎年契約更新をしている著作権規定に基づき支給した。現在他団体から個人に支払われる作品売り上げや出展謝金及び作品の使用料収入から下記の規定により月給と別途本人支給した。

今年度、工賃の支給額最高は 7,041,150 円（6 年 7,367,960 円、5 年 10,655,800 円、4 年 7,105,500 円）となっている。また今年度、併用利用者を含めた工賃年収合計は 30 万円未満の利用者が 61 人、30 万円から 50 万円が 13 人、51 万円から 100 万円が 9 人、101 万円から 300 万円が 6 人、301 万円から 500 万円は 1 人、500 万以上は 3 人となり年間の平均工賃額は大幅に向上しているが今後著作権料だけではなく全体的なベースアップが責務である。尚、特筆した事柄として今年度より一部の利用者が確定申告を行った。

来年度においても利用者の日常のペースに配慮しながら、状況に応じた様々な活動を展

開する他、新たな事業を検討し更に収益を上げ、利用者の工賃倍増を目標に取り組みたい。

■著作権料支給表

(年3回に分け賞与時期に準じて支給／8月、12月、3月)

作品1点につき得た収入(税込価格) (作品販売、出展料、デザイン使用料等)	著作権料分配率
～500,000 円未満	本人(70%)：事業所(30%)
500,000 円～1,000,000 円未満	本人(80%)：事業所(20%)
1,000,000 円以上～	本人(90%)：事業所(10%)

※事業所収入は、毎月の工賃として授産会計に充てることとする。

6) 施設の充実について

今年度は個別支援を必要とする利用者の環境整備を行うため屋外にコンテナハウスを2棟設置した。その他送迎バスの老朽化と利用者増に伴い日産キャラバンを2台購入した。その他においては一部OA機器の整備、PCのウィルス対策、大型プリンターの配備、厨房及び厨房機器の整備を行った。また施設内雨漏りに関する修繕を行った。今後、利用者の個別支援に伴う室内環境整備が必要である。引き続き活動場所においては屋内外問わず整理整頓を行い、安全と衛生面において問題が発生しないよう常に環境整備に努め、利用者が安心安全の中、快適に活動が出来るよう努めたい。

7) 社会参加・地域交流事業

やまなみ会通信(年3回、郵送5,000部(関係団体・個人)、甲南町自治会回覧版)の発行は内容を充実させ引き続き購読者も増え好評を得ている。今年度においても様々な団体や行政の機関紙等で利用者の活動が多く取り上げられたことは地域や関係者のみならず全国的に理解へと繋がっている。

また、今年度もたねや、サントリー、グーグルをはじめとした有名企業とのコラボ等様々な団体との連携が活発な一年であった。また教育関係者や行政をはじめとした各種団体、全国の福祉関係者によるセミナーや研修会においては積極的に参加している。次年度は書籍の発刊を計画している。(自主出版1冊、出版社企画3冊)、引き続き作品やグッズ販売を積極的に取り組みたい。甲賀市から受託を受けた地域交流事業においては映画製作を行い1年を通じて協力をした。今年度においてもLIVE事業やワークショップは引き続き開催を見送ったが次年度より再開したい。

図 11) 令和 7 年展覧会開催報告

令和 7 年度・展覧会内容

日程	展覧会名	開催場所	出展作家
3/29-4/3	合同会社らいと LIGHT IT UP BLUE	大阪吹田市文化会館	中川ももこ、服部初佳、鵜飼裕之、 水上詩楽、中尾紀敦
3/29-5/31	ここに、集う	ハルホーニー ISAI PARK GALLERY	鳥山シュウ
3/5-4/4	BEYOND BORDERS 創造の森へ	Karimoku Commons Kyoto	小川翔陽、吉川秀昭、鎌江一美、KATSU、田中乃理子、富士川 義晃、森田郷士、大路裕也、山根孝文、大家美咲、井上優、 中尾涼、加賀谷圭太、池ノ内孝文、水上詩楽、田村拓也、吉 田陸人、中川ももこ、
4/5-6/29	魔法少女の軌跡	横浜人形の家	大家美咲、川邊紘子
4/9-6/23	吉田ひより展	湖のスクーレ	吉田ひより
5/12-5/30	ワタシ イキイト、ジ・ユア イス・ニヤムンやまなみ合同展	やまなみ工房ギャラリー	複数作家
4/12-7/6	ぐるぐるまわってみる	福島はじまりの美術館	一木
4/16-18	ハルホーニーやまなみ工房撮影	やまなみ工房	中川、中尾、山根、川邊
5/31-6/14	ハルホーニーアートプライズ 2025	東京三井住友銀行東 館 1F アースガーデン	Aot、鳥山シュウ、服部大将、宮下幸士
	ハル東京出張	東京	中尾、川邊、大路
6/2-6/4	関西万博展覧会 BIG-i アートプロジェクト	大阪夢洲ギャラリー WEST	清水千秋、栗田淳一、吉田楓馬
6/4-6/8	第三回 irodori 作品展	静岡イノモル浜松	井野友貴、大家美咲、岡元俊雄、竹口和、藤岡桃花
6/7-6/29	Goozen meet me #20	横浜 Goozen	森田郷士
6/14-7/19	Jギャラリー&カフェ 10 周年記念企 画やまなみ工房展	JGallery&CAFE	井野友貴、大家美咲、岡元俊雄、上土橋勇樹、KATSU、川越社 真、川中琴樹、川原直樹、栗田淳一、斎藤志保、四白、城谷 明子、田村拓也、中井寛虹、西橋直樹、服部大将、宮下幸 士、森雅樹、森田郷士、山際正己、山根孝文、吉田ひより
6/25-10/5	中井寛虹展	湖のスクーレ	中井寛虹
6/25. 9/1	滋賀県美万博企画 WS	大阪舞洲	鵜飼結一朗
7/9-7/31	Goozen のぐうぜん 2 3ねんと3かげつ	横浜 Goozen	吉田陸人
7/12-7/20	生活へのまなざし エイブルアート展	岐阜県可見市文化創造センター	中川ももこ
7/12-9/7	つくる冒険	北海道函館美術館	鎌江一美、吉川秀昭
7/19-8/8	あいサポート・アートセンター Meetup	鳥取県美術館	酒井美穂子
7/18-11/24	いとおし、おかし、怪し、いきものたち	栃木もう一つの美術館	鵜飼結一朗
7/19. 20. 21	DISTORTION3	大阪農林会館ビル	川中琴樹、北村悠、四白、富田直樹、吉田ひより
7/19-	木梨憲武展		山際正己、山崎菜那、岡元俊雄、田村拓也

8/23-9/7	重い線、軽やかなタッチ	大阪パティナホテル	岡元俊雄
9/6-15	ながさきピース文化祭 2025	長崎県美術館	森田郷土、吉川秀昭
9/10-9/21	表現のフシギ展	フェニーチェ堺	田村、中川、宮下、山際、山根
9/13-10/19	GO FOR KOGEI 2025	富山県富山市 石川県金沢市	清水千秋／岡元俊雄／河合由美子／栗田淳一／四白／瀧口真 代／TAKATO／田村拓也／中井寛虹／山崎菜那／吉田楓馬
10/1-10/5	クリエート展	静岡	
10/4-10/12	松本企画	滋賀大	四白、中川、森、藤岡、吉田ひ、武田
10/4-10/12	愛と公益	新潟駅内南口 MOYORé	吉田陸人
10/6-11/4	COLOR&SOUND2025	滋賀大学大津キャンパス	四白 武田慎一／中川ももこ／藤岡桃花／森雅樹／吉田ひより
10/8-12/21	林口勲展	湖のスコーレ	林口勲
10/10-12/9	ヴァション展第一回	Vacheron Constantin Galerie 1755	NANA／水上詩実／大家美咲／池ノ内孝文／吉川秀昭／河合由美子／勝間陽介
10/9-10/11	アバンギャルドですが、なにか	万博会場内	岩瀬
10/11-10/20	雑踏展 in 甲府	山梨県甲府	岩瀬、山際
10/15-10/19	ふじのくに芸術祭 2025	静岡県立美術館	井村ももか／小川翔陽／川越壮真／川邊紘 子／清水千秋／城谷明子／鳥山シュウ
10/15-10/21	ART365 香りと美のアート展	大丸心斎橋店	勝間陽介／森雅樹
10/18. 19	大津ジャズフェスティバル	大津市	NANA
10/18-1/12	Avant-gardes? yes we are!	NO - MA	岩瀬俊一
10/22-11/5	COLOR & SOUND 展	龍谷大学	
10/27-2/2	やまなみ工房 すべての幸せ を感じるために	るんぴに美術館	井村ももか／井野友貴／井上優／岩瀬俊一／鶴飼結一朗／鶴飼結之／小川翔 陽／大路裕也／大家美咲／大原菜穂子／岡元俊雄／加賀谷圭太／KATSU／萱原 朗永／鎌江一美／上土橋勇樹／河合由美子／川越壮真／川邊紘子／熊田史康 ／栗田淳一／神山蓮津美／神山美智子／酒井美穂子／菅藤志保／城谷明子／ 清水千秋／関文滋／瀧口真代／田村拓也／竹口和／田中乃理子／田中睦美／ 鳥山シュウ／NANA／中井寛虹／中川ももこ／中尾涼／西橋直樹／服部大将／ 林口勲／藤木敦仁／藤井勇輔／富士川義晃／本田吉菜／森雅樹／水上詩実／ 三井啓吾／森田郷土／山崎菜那／山本愛／山際正己／吉川秀昭／吉田楓馬／ 吉田陸人
10/31	たいぞう展	Laugh & Peace Art Gallery	大家美咲、瀬古美鈴、田中乃理子、田 村拓也、服部大将、森田郷土
11/5-11/16	はばたくつばさ	大分県立美術館	Aot／井野友貴／井上優／岩瀬俊一／井村ももか／鶴飼結一朗 ／内田泰代／岡元俊雄／大路裕也／大原菜穂子／大家美咲／ 小川翔陽／川越壮真／鎌江一美／川邊紘子／上土橋勇樹／久 保田唯／河合由美子／栗田淳一／神山美智子／KATSU／酒井美

			穂子／四白／城谷明子／瀧口真代／田中乃理子／田村拓也／ 竹口和／鳥山シュウ／NANA／中井寛虹／中尾涼／西本凌 也／林口勲／藤岡桃花／水上詩楽／三井圭吾／宮下幸士／森 雅樹／森田郷土／山崎菜那／山際正己／吉田楓馬／吉田陸人 ／吉田ひより／吉川秀昭
12/5-12/27	アール・ブリュット展 日常 とアートの狭間	秩父会場 障がい者 支援施設さやか	山際正己
12/6-1/25	Strike Gold Art for 'No Concept' 作為なき表現者たち	GYRE GALLERY	鳥山シュウ／中川ももこ／中尾涼
12/11-1/29	ヴァンシュロン展	Vacheron Constantin Galerie 1755	池ノ内孝文／山根孝文／岡元俊雄、田村拓也
12/24-3/30	山と湖展 vol. 04	山と湖展 vol. 04	青木昂／鶴飼裕之／榎本朱里／内田泰代／大家美咲／KANA／北村悠／杉本か おる／中内田幸大／中尾紀教／NANA／西本凌也／服部大将／服部初佳／藤本 敦仁／宮下幸士／山本愛／山根孝文／YURIKA
1/7-3/2	I SEE, YOU SEE	HERALBONY GINZA Gallery	大路裕也
3/14-29	VOCA 展	上の森美術館	上土橋
1/17-2/28	自分が自分であるだけでいい 場所	ノナカヒル京都	井上、小川、鎌江、川中、久保田、関、 TAKATO、中川、宮下、森、山根、吉川
1/24-2/3	第三回まるまるつながるアート展	福井県立美術館	井野、KATSU、森田
2/5-2/11	かんでんコラボアート	グランフロント大阪	林口
2/22-3/7	かんでんコラボアート	関西ビルディング	林口

8) 関係団体との連携

体制上平日勤務時間内で開催される圏域のサービス調整会議や各種団体の会議には参加が今年度も難しく、積極的な関わりは困難で出席できない事が多かった。ただし利用者に関する個別支援調整会議等においては可能な限り対応をした。また他機関による相談支援の訪問や聞き取り等現場に影響のないよう統一した時間設定を行い対応している。

その他他団体主催による研修会への参加及び派遣、また希望のあった多種多様な個人及び団体見学の受け入れ等積極的に行った。

施設運営や利用者支援に関する第三者委員会への申し立て等については今年度も事例がなかった。今後もそうしたことが起こらぬよう利用者と家族の尊厳を何より保障する。

例年 4 月 1 日に全家庭に対し、苦情申し立て及び第三者委員会の概要説明、利用者の著作権及び著作人格権等の意思確認、緊急連絡先の確認、保険説明を例年同様行った。第三者

委員には半年に一度書面提出、年に一度訪問いただきヒヤリハットの確認や状況説明及び見学案内を行った。

管理者を中心に今年度新たに法人内に置いてコンプライアンス委員会を立ち上げ様々な事例に対応できるよう組織改革に努めた。また継続して身体拘束の適正化のための指針、障害者虐待の防止と対応の指針、自然災害発生時における BCP 業務継続計画、感染症発生時における業務継続計画を策定し、更に質の高いサービス向上を目指し取り組んでいる。引き続き利用者が日常安心して適切なサービスが受けられるよう、個々のケースに応じて医療機関や相談センター、行政及び福祉施設とその都度連携を図り課題解決に繋げた。また、日中支援のみならず、利用者の家族を含めた包括的な支援や、生活の保障、権利擁護事業や後見人制度の活用についても必要に応じ行ってきた。施設長を中心に他団体が開催する研修会に参加し、日常の実践への意識を高めるようにした。施設内においても引き続き施設事故・虐待予防対策委員会を開催し、全職員にヒヤリハットの提出を月一回以上義務付け定例会議を行うようにし、各種マニュアルや報告書もより細部の事案に対応できるよう徹底している。(ヒヤリハット件数 299 件)

9) 福祉事業サービス

利用方法、送迎サービスや給食提供はもちろん、個々の要望に最大限配慮し適時対応を行った。また、通院同行や家庭訪問、電話相談他、朝夕の時間外支援、移動支援など必要性に応じて、その都度体制を整え対応を行った。引き続き利用者や保護者と連絡を密にし、体調管理や生活基盤について細心の注意を払い、日常安定した生活が送れるよう配慮する。

週 1 回の班会議、月 2 回の職員会議と合わせ、非常勤職員を含めた月一回の職員全体会議において個別ケースや緊急事例に関して全体で対策を講じてきた。年間の支援計画については 6 月に個別の保護者面談を行い、活動方針の説明や各家庭のニーズ、個々のアセスメント、フェイスシートを作成し日常の支援に効率よく活かすことが出来た。モニタリングは年二回行い、支援計画等の見直しを行っている。

給食サービスについては、衛生面の徹底的な管理の向上を常に念頭に置き調理を行った。一人ひとりの障害や、健康状態に配慮する中、楽しく美味しく食すことを原則に食事を提供し、利用者にとっては健康を維持し日々の活力となり得る重要な役割を果たしている。衛生面においても徹底管理し今後も安心安全に留意し行う。

送迎サービスについては送迎対応マニュアルを策定し安全について徹底した強化を引き続き行った。また交通安全委員を配備し、より一層安全面を徹底している。今後も各家庭の様々な事情に最大限対応していきたい。(車両事故等については今期 2 件、業務中の怪我による労災については 3 件。)

次年度においても月一回(3 月・4 月を除く)の土曜出勤については原則継続して行う。

健康診断（年一回）や集団歯科検診、インフルエンザ予防接種等、利用者が健康で過ごせるよう配慮を行った。有料での散髪サービスは今後も継続し家庭支援へと繋げたい。

10) 今後の課題と事業展開

現在、定員 80 名に対し 93 名（令和 8 年 3 月 31 日現在）が在籍している。近年入所希望者は減少傾向にあるが引き続き職員体制の確保また、支援の専門性を高め現利用者に対するサービス向上に努めなければならない。次年度以降も利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、明るく・温かく・楽しく健康で快適に生活ができるように創意工夫を凝らしながら、豊かな人間性溢れる支援を行えるよう更なる強化に努めたい。どんなに障害が重くても、労働を通じて社会に参加し、生きがいと誇りをもって心身ともにゆたかな暮らしを送れるよう、利用者一人ひとりとその家族のニーズに対し常に適切な支援を行い地域の中で安心して日常生活が送れる事を保障する。